

団体へ未提出の署名の東京事務局への提出をお願いしてきましたが、差が埋まりませんでした。署名の集計数は、直接事務局に送付されてきた現物数と、東京事務局に報告される「中央の各団体」がつかんだ地方・地域組織からの結集数の合計数です。事務局に報告される「中央の各団体」がつかんだ地方・地域組織からの結集数の合計数です。

中央の各団体からの報告数は、署名の現物のない「報告数」です。実態として、地方組織がいくつかの中央組織に参加しており、それぞれが中央組織に報告したため、ここでダブルカウントが生じ、結果として約400万筆の差があることが判明しました。2019年6月27日現在で国会に提出されている署名数は947万9977筆です。総がかり行動実行委員会として、2019年5月3日の大集会でも、発表署名数の修正をせずに、引き続き東京事務局への署名の集約を求め、今日まで至らせた点を含め、全国で取り組んでいただいたみなさま、また関係のみなさまにお詫び申し上げます。

憲法会議 拡大常任幹事会で確認し合ったとおりに、3000万人署名を推進

憲法会議は9月25日の担当常任幹事会で、この全国市民アクション・総がかり行動実行委員会の「総括と基本的とりくみ方針」の今後の3000万人署名運動の「基本的考え方」を受けて議論し、「9月1日の拡大常任幹事会で確認し合ったとおりに、3000万人署名を推進する」ことを確認しました。

◆拡大常任幹事会の議案

「全国各地で2年間、全国3000万人署名を取り進む中で、世論調査等で安倍政権下での憲法改正に多数の国民が反対の意思を示すなど、改憲反対の世論が広がっています。引き続き3000万人署名を推進し、9条改憲反対の世論をさらに広げ、国会発議を許さぬたたかいをすすめます」

国連気候行動サミット

「若者裏切るなら許さない」グretaさん各国首脳ら追及

「被害を受けている人たちがいる。死につつある人たちがいる。生態系全体が崩壊しつつある。30年以上、何の曇りもなく科学は示してきたのに、どうすれば目をそらし、これで十分だなどと言えるのか！」

ニューヨークの国連本部で23日に開催された気候行動サミットは、若者とグテレス国連事務総長の対談が始まりました。スウェーデンの環境活動家グreta・トゥンベリさん(16)は声を震わせながら、首脳らを厳しい言葉で追及しました。このように、グretaさんは、長年抜本的な対策を怠ってきた指導者らへの怒りと不信、未来への危機感をむき出しにし、若者の声を代弁しました。



グretaさんは、首脳らに対し「私たちは大量絶滅のとぼ口にある。でも、みなさんが口にできることと言えば、お金のことと、経済成長は永遠に続くというおとぎ話だ」と怒りを吐露。「未来の世代の目はみなさんに注がれている。もし私たちを裏切ることを選ぶなら言おう、私たちはみなさんがこの問題から逃げることを許さない」と取り組みの加速を求めました。

グテレス国連事務総長によると、今回のサミットでパリ協定の履行が始まる2020年までに、それぞれの国が定める二酸化炭素排出量の削減目標を上乗せすると発表したのは70カ国にのぼりました。ただ、排出国の上位を占める中国は新たな目標を出すには至らず、米国は温暖化そのものを否定し、パリ協定からの離脱を表明しています。

一方で呆れかえる小泉環境相の「セクシー」発言

同サミットに参加していた小泉環境相は、「気候変動問題に取り組むことはきつとセクシーでしょう」と英語で述べ、国内外で波紋を呼んでいます。発言は22日朝の非公開会合後、主に英語で質疑が進んだ記者会見で飛び出しました。「セクシー」という言葉は、同じ会見に出席した国連気候変動枠組み条約前事務局長のクリスティアナ・フィゲレス氏が先に使ったと報道されています。

小泉氏は記者団に「セクシー」発言の真意を問われ、「それをどういう意味かって説明すること自体がセクシーじゃないよね」と話しました。「対策としてクールは分かるがセクシーは会見で聞

き慣れないのでは」との問いにも、「だからそれを説明すること自体がセクシーじゃないよね」とほぼ同じ言葉を重ねました。

発言をロイターが「s e x y」を見出しにとり、「どう指導力を発揮するのかという点で詳細は語らなかった」と報じました。国内ではツイッターで「キャッチーな表現だけれど、何をしたいのかわからない」「計画的にしっかり行動で示すとだけ言えばいい」といった声が上がっています。

具体的な対策等を示せず、「セクシー」発言では呆れてしまいます。小泉氏はせめて環境庁の気候変動問題の政策等を理解した上で発言してほしいものです。

各地のとくくみ

兵庫 「“年金充実は9条あってこそ”を訴えていきたい」

9/19 西区共同センター拡大幹事会開かれる

戦争法強行採決から丸4年の日、西区共同センターは西神中央駅前で「戦争法廃止・安倍改憲許すな」の宣伝行動をもちました。45分の行動に14団体23名が参加し「ビラの取りもよく」署名も17筆集まりました。

そのあと休むことなく「拡大幹事会」が西区民センターでもたれました。岩佐代表の挨拶のあと県共同センターの津川代表から『秋のたたかひの展望はここにあり』の講演、井上事務局長から11月の総会までに目標の50%到達＝4000筆の上積みを作りきることなど秋の取り組みの提起があり、それを受けて参加者発言。「改憲許さないことを“わが事にする”ため自分がどう考えているかを訴えることが大事」「各地域が分担した全地域ポスティングをやるなど具体的な行動提起を」「敬老パス問題も一緒に取り組み共同センターとしても集約したい」など熱心な協議が行われました。この拡大幹事会には区内の団体から24名が参加しました。

週刊兵庫憲法共同ニュース726号より

東京地評 何としても大会まで目標の100万人達成を、と大奮闘！

以下、東京地評からの呼びかけです。

東京地評の9月24日現在の署名到達は99万1257筆となりました。皆さんの奮闘により、100万筆目標まで残り8743筆です。東京地評定期大会（9月29日）最終盤となりました。全組織で署名数点検・集約をやり切りましょう。点検・集計が日常的に進められている組織は、事務所に残っている署名用紙を配り切り、署名現物を集めることに執心して取り組みましょう。最後の追い上げで、必ず署名数を残り8743筆を集めきりましょう。

本日は、全印総連東京地連が103筆、東京土建が61筆、新宿区労連が80筆、豊島区労協が125筆、渋谷区労連が4筆、墨田労連が2筆の署名を現物集約しました。

新宿区労連が参加する地域共闘組織「みんなの新宿をつくる会」は9月20日夜に、新宿駅西口で30000万署名宣伝を行い、15名の参加のもと、新たに45筆集めました。豊島区労協が参加する「豊島アクション」は9月24日昼、巣鴨地蔵通り商店街入口で宣伝行動を実施し、25名の参加のもと、125筆を集めました。

9月末は、東京地評定期大会（9月29日）前最後の集約です。単組・職場のなかで、未集計となっている署名1筆1筆を取りこぼさずに集約しきり、なんとしても残り8743筆を積み上げ、100万筆目標を達成しましょう。新たに集約した署名がある場合は、1筆でも必ずご報告ください。

宇都宮 宇都宮市で19日、2ヵ所で抗議集会を開催

総がかり実行委員会などによる国会議員会館前行動に呼応し、宇都宮市で19日、2ヵ所で抗議集会を開催しました。

「戦争法廃止と立憲民主主義の回復を求める栃木県民ネット」は二荒山神社前で「安保法制（戦争法）廃止！9条守れ！宇都宮市民の会」は東武宇都宮駅北口周辺でリレートークしました。

日本共産党の福田くみ子市議団長は「市民と野党の共闘の輪をさらに広げ、強くし、安倍内閣を追い詰めて行こう」と訴えました。

ビラを受け取った男子高校生は「憲法は大切。『変える、変えない』という意見があることは知っています。自分でしっかり勉強して判断したいと思います」と話しました。